

世界を変える日本の技術

在アルジェリア日本国大使館

1970年、当時大阪万博を訪問したアルジェリア関係者は、故丹下健三（1913～2005）氏の手による日本の現代建築に魅了されました。帰国後、ウワリ・ブーメディエン大統領（当時）に報告したところ、1972年にオラン科学技術大学（USTO）施設群の設計が故丹下健三氏に委ねられることになりました（オランはアルジェリア生まれのノーベル文学賞作家であるフランス人のアルベール・カミュの小説「ペスト」でも描かれている美しい街）。USTO建設にあたっては、日本の鹿島建設とアルジェリアの建設公営企業が共同で行い、1986年に最初の一部分が完成しています。

また2010年度からの5年間には、このオラン科学技術大学を中心として、太陽光電池の原料を砂漠の砂から抽出する基礎研究が日本とアルジェリアの研究者の共同で行われました。このサハラ砂漠を起点とするソーラーブリーダー（注）研究開発事業は、日照時間の長いサハラ砂漠を活用して太陽光電池産業を育成し、最終的には世界各地に電力を送ることを目指しています。

（注）ソーラーブリーダー事業では砂漠に太陽光発電所を建設、それによって発電した電力と砂漠の砂に含まれる原料でさらに太陽光パネルの生産を行います。これを繰り返すことでパネルの生産と発電の規模を拡大し、砂漠を太陽光パネルの生産と発電の拠点化、最終的には世界の電力をカバーしていくことを構想しています。



オランの街並み



オラン科学技術大学



左側の一番高い建物（管理棟）からの風景



内観

(了)